

# 出町茶論だより

でまち さろん

No. 56

2020.3.1

## 京極幼稚園の園児さんが来訪してくれました

2月4日(火)午前、京極幼稚園の園児たちが出町茶論に来てくれました。園児の皆さんが歌と遊戯を披露して、出町茶論からは、折り紙で作った雛人形を一人ひとりにプレゼントしました。最後に握手をしてお別れしました。

京極幼稚園と出町茶論は同じ京極学区にあり、これからも地域の繋がりと共に、多世代交流を続けて行きたいと思います。

31名の園児の皆さんの元気な歌声が部屋いっぱいに響き渡りました。



ご利用者が折り紙で作ったひな人形をプレゼント。男の子から、「なんや女のや」子供は正直 😞 今回は勘弁してね 😊 次回を楽しみにね 😊

園児の皆さんが帰る時に、ご利用者一人ひとりと握手しました。子供たちの元気を一杯もらいました。



## だいじょうぶだよ

皆さんご存知の認知症検査スケール開発の長谷川和夫先生が自らの体験から書かれた絵本、～「だいじょうぶだよ」ほくのおばあちゃん～を、京極幼稚園へ絵本の読み聞かせの時に使って下さいとお渡ししました。

家族でご飯を食べていたら、認知症になったおばあちゃんが「みなさんどなたですか？誰かわからなくて」、家族がショックを受ける中で、孫の男の子が「おばあちゃんはみんなのことがわからなくても、みんな、おばあちゃんのことわかっているからね」認知症がわからなくても小さいときから、人に対する思いやりの心を持ってもらえればと思います。



## 第2回手話セミナー



第2回の手話セミナーを2月23日(日)に行いました。今回は「上を向いて歩こう」を手話で表現しました。歌いながら、指、手を使い、表情も豊かにして何回か練習をしました。指、手で歌詞を表現することは、想像力も動き頭の体操になることを改めて実感しました。



## 映画「折り梅」

私(武藤)が関わっています京都SKYシニア大学の講座で、2002年制作の映画「折り梅」を原作者の小菅もと子さんと一緒に鑑賞しました。夫の母・政子と同居することになった主人公・巴が、認知症の症状が進んで行く政子の介護を巴が苦悩、葛藤していくというストーリーです。まだ痴呆症と言われていた時の作品ですが、今の時代に、より実感を伴う映画です。鑑賞後に受講者の皆さんの感想と小菅さんと活発なフリートークを行いました。



夫の母・政子 (吉行和子)

主人公・巴 (原田美代子)



原作「忘れても、しあわせ」

アンケートの抜粋からの関心事は、

- ① 認知症について気になること 症状がどのように進行していくのか。
- ② 認知症の予防等についてどのように考えるか 自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい。
- ③ 認知症の人が住み慣れた地域で暮らすにはどのような協力が必要か
  - ・定期的な声掛け
  - ・話し相手

以上、アンケートの一部ですが貴重な意見として、出町茶論が地域密着の事業所として何が出来るかを、もう一度考えてみたいと思います。



原作者から映画説明

原作者 小菅もと子さん



◆どうぞご利用のお問い合わせ下さい◆

出町茶論(でまちさろん)

☎075-204-4716

京都市上京区寺町通今出川上る表町21 市川ビル

<https://demachi-salon.site/>

## 祇園祭りのちまき作り



前月に引き続き、ちまきづくりを行いました。今回は講師にお越しいたいて、60本ほどを作りました。はたして厄除けとして祇園祭にデビューできる作りになっているのか？ また、3月にも行いますので、皆さんお越し下さい。



ふそろいのちまきたち